



伝統行事を継承し飛躍する町田 消防少年団の取組について



東京都町田消防少年団 団長 八木 文典

1 はじめに

町田市は、東京都心部から 30 km圏にあり、東京都の南西端に位置し、多摩地区の南端にあります。

町田消防少年団は昭和 53 年 5 月 20 日に町田市の花「サルビア」にちなんで「さるびあ隊」として、団長と指導者 2 名及び団員 30 名で結成され、来年 5 月で設立 40 周年を迎えます。これまでの 39 年間で、約 350 名の団員が卒団しており、卒団後に、消防団員や消防少年団の指導者になるなど、地域における防火防災の中心となって活躍している方も多数います。平成 29 年 4 月 1 日現在で、団長と指導者 18 名及び団員 76 名で構成され、防火防災を通じて地域と関わりを持ち、支援団体である町田消防少年団育成会の支援のもと仲間と交流を深めながら様々な活動を行っています。

2 主な取組

平成 29 年度の町田消防少年団の主な取組を紹介します。

(1) 結成から続く伝統的な取組

平成 29 年 6 月 17 日（土）に町田市にある



徒歩訓練におけるゴール到着

大地沢青少年センターから町田消防署までの 30 kmの徒歩訓練を実施しました。30 kmという距離は、大規模災害等が発生した時に、「新宿からでも少年団員たちが町田まで歩いて帰ることができる距離」として設定されています。さらに、昨年から中学生以上の団員については、さらに 10 kmを加えた 40 kmの徒歩訓練を実施しています。

この徒歩訓練は、町田消防少年団が設立された昭和 53 年から続いている伝統的な訓練で、今年も 39 回目でした。今年も梅雨時期の中、「なぜかこの日は晴れる？」とのジンクスのとおり、晴天の中、八木団長の号令で小学校 1 年生を含めた団員 45 名が 10 時 30 分に一



15 名の新入団員を迎えた卒入団式（平成 29 年 4 月）



山岳救助訓練（担架搬送）



少年消防クラブ交流会

斉にスタートしました。日中は27℃を超える高温の中、重いリュックを背負い、大量の汗をぬぐい、また途中で足が痛くなる団員も発生しながらも、全員が気を遣いながら声を掛け合って、45名全員がリタイアすることなく完歩することができました。ゴールの町田消防署では全団員が疲れ果てていましたが、「30kmを歩き切れて自信が持てた。」「来年は弱音をはかずにゴールしてみせる。」などの頼もしい言葉があり、また一つ大きく成長することができました。

（2）他団との交流のための取組

自然に満ち溢れ恵まれた環境下で、秋川消防少年団との合同山岳訓練を平成29年5月21日（日）に他団の団員たちの親睦を深めることを目的として秋川消防署深沢山岳訓練所において実施しました。この訓練は昨年度から行われており、今年は小学4年生以上から参加者を募り、総勢30名が参加しました。

東京消防庁秋川消防署山岳救助隊の指導の下、座席結びを活用したチロリアン渡過訓練及び山岳事象における担架搬送訓練を実施しました。団員たちからは、「いつもとは違う環境で訓練ができてよかった。」「初めてロープを渡って、結索の大切さを感じた。」などの活発な意見が聞かれました。この合同訓練を通じて、団員達の交流が深まり、チーム力をさらに向上させることができました。

（3）さらなる飛躍を目指した取組

今年も昨年に引き続き、少年消防クラブ交流会（全国大会）への参加が決定しました。昨年の、宮城県南三陸町で行われた交流会では、合同訓練対抗リレーと障害物競走において、惜しくも入賞を逃しましたが、今年に入賞を目指し、少年団指導者と参加団員が一丸となって頑張りたいと思います。昨年よりも充実した交流会や他の団員に経験を受け継がれることを期待して、心を膨らませています。

また、今後はヨーロッパ青少年消防オリンピック参加を目指し、町田消防少年団が更なる飛躍をしていきたいと考えています。

3 おわりに

ご紹介した活動の他に、町田消防少年団は、厳しさの中にも愛情ある指導育成をモットーに防火防災についての知識及び技術の取得や地域行事での火災予防広報等にも積極的に取り組んでいます。また、規律訓練や夏季における野外活動を通し、団体生活におけるルールや規律を身に付け、責任感のある少年少女の育成に努めています。

これからも町田消防少年団は、伝統を継承しながら新しいものに挑戦し続け、地域の皆様に親しみ愛される少年団を目指していきます。